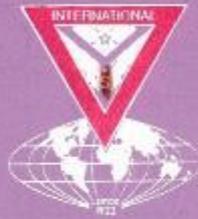


The Service Club for the YMCA
Affiliated with the International Association
of Y's Men's Clubs
Chartered 1972



THE Y'S MEN'S CLUB
OF CHIBA

c/o CHIBA YMCA
2-5-15, Fujimi, Chuoku, Chiba 260-0015, Japan
Tel. 043-222-3811

千葉ワイズメンズクラブ 2025年10月会報

会長 廣田 光司 IP Edward Ong (シンガポール) Faith, Love, Action
副会長 倉石 昇 AP 田上 正 (熊本むさしクラブ) Act now with faith and love!
書記 青木 一芳 RD 山下 真 (十勝クラブ) Rediscovering Y's Uniqueness
会計 池田 信成 DG 鈴木雅博 (東京江東クラブ) CHANGE(変革) 若者から発信
副会計 陶山 喜章 CP 廣田光司 地域社会のために, YMCA と共に
担当主事 山添 仰 @千葉 YMCA 260-0015 千葉市中央区富士見 2-5-15 電話 043-222-3811 Fax 043-222-5061

今月の聖句 (神の国はいつ来るのかと尋ねられたときのイエスの答え)「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」

(ルカによる福音書 17章 20,21 節)

千葉ワイズメンズクラブ 10月例会

「ASF=アレクサンダースカラシップファンド」強調の月

10月11日(土) 13:00-15:00 千葉 YMCA で

◎千葉クラブ事務例会は 12時から同所で。

例会司会 青木清子サン 受付青木一芳君

開会点鐘 廣田光司会長

ワイズソング・ワイズの信条

聖書朗読 池田 信成君

ゲスト・ビジター紹介

会長報告・YMCA 報告

楽しい午餐 感謝 池田君

誕生日祝い 会員に該当者なし

結婚記念日 池田夫妻

卓話「熊本でのエリア大会報告」 青木 一芳君

↳帰り道の周防大島と広島土産話も

オークション 担当 青木 清子サン

ドライバー(コイン献金で近況) 担当 古屋 朝則君

閉会の言葉 山添 仰君

閉会点鐘 廣田 会長 / 会場係 倉石昇君

母子福祉の最前線を学びました



9月は千葉ウエストクラブとの合同例会で、内容は特別講演会「賛育会 赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」。講師はこのプロジェクトの担当者大江浩さんでした。クラブ会員以外に多くのゲストが参加し約30名の大きな集会になりました。世界と日本の母子福祉の最前線の状況について深く学ぶことができました。大江さんから講演のレジュメをいただきましたので、後の頁に掲載します。

☆

今月の例会では8月の(国際ワイズ)アジア太平洋エリア大会に参加した青木夫妻からその報告を聞きます。スライド映写を交えます。

来月11月は例会日8日が千葉 YMCA のチャリティーラン当日ですので、例会はこのイベント参加をもって開催したこととします。終了後に船橋駅前のFACEに移動し、5階でクラブ事務例会を開きます。

9月のデータ 会員8名(+休会2)

例会出席=千葉8+千葉ウエスト 8+ゲスト・ビジター 15
千葉8のうち1はZoom参加 9月出席率 100%
千葉ネット1 オークション ---- (年度累計 3,700)
ドライバー 16,500 折半で 8,250 (年度累計 29,316)

例会出欠届けは青木書記(電話 047-326-6026, またはメール kkaoki@myad.jp)に、10日までにお願ひします。ゲスト同伴の場合も早めにご連絡を。

クラブへのご入金下記口座へ

クラブ口座 千葉銀行千葉駅前支店(普)3735735

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”



◆9月合同例会の報告(9月13日,船橋教会で)

出席=(千葉)青木 青木 池田 倉石 陶山(Zoom) 廣田 古屋 山添 廣田メネット; (千葉ウエスト)内田 岡田 佐藤 高田 長尾 平田 守安 吉崎; ビジター=小仁恵子(東京グリーン); ゲスト=大江浩(賛育会) ほかに多くのビジター・ゲスト, 総計約 30 名
第 1 部講演会は廣田君の司会で進められました。

限られた時間を有効に使うために,形式は極力省き,廣田会長の大江講師紹介に続きすぐ講演に入りました。大江さんのルーツは京大 YMCA でのキリスト教セツルメントの経験です。

大江さんは神戸 Y, 横浜 Y で 26 年キャリアを積んだのち,YMCA を辞して JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)の総主事となり 9 年間勤務。その間,アジア・アフリカの途上国における保健医療協力の現場を体験されました。衛生環境の遅れから,新生児・幼児の死亡率が高く,何秒かに一人の赤ちゃんそして1分に一人の母親のいのちが失われています。

JOCS から日本 YMCA 同盟に“戻り”,5 年後に社会福祉法人興望館に移り,セツルメントの原点に帰って児童福祉・社会的養育の活動に携わりました。

さらに 3 年後, 社会福祉法人賛育会に移りました。賛育会のルーツは東大 YMCA にあります。賛育会病院で直面したのは,途上国ではっきり見た母子の衛生問題とは異なる,「静かなる非常事態」ともいべき目に見えにくい大きな問題でした。

家族や友人に祝福され万全の準備のうちに出産する女性と赤ちゃん。しかしその陰に,予期せぬ妊娠に独りで悩む女性からの匿名相談や,内密に出産したいとの懇請,さらには密かに生んだ赤子の処置に困っての SOS(いわゆる赤ちゃんポスト),このようなケースが後を絶たないのです。

すべてのいのちが守られ,共に生きる社会を目指す,という隣人愛の理想と,世評や法律の建前とをどう折り合わせてこの事態に対処すべきか。賛育会では熟慮のうえ,関係方面との慎重な打ち合わせを重ねて,「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」を始めました。

(次頁に,大江さん自筆の卓話骨子を掲載します。)

大江さんの講演と質疑応答(欧米諸国の実情)などを終え,残り 30 分でワイズ通常のプログラム(おもにドライバー)を進め,定刻少し過ぎに閉会しました[左の写真:右手のパソコンから Zoom 参加の陶山君が挨拶]。

◆9月事務例会の報告(例会の前,教会会議室で)

(出席=青木一 池田 倉石 廣田 古屋 山添)

1. 10 月例会の詳細を前頁のように決定。
2. 11 月例会は8日(土)の千葉 YMCA のチャリティーラン参加をもって例会とする。ワイズカフェを出店する。閉会后に船橋駅前 FACE 5 階で事務例会を開く。
3. 千葉ウエストクラブ創立5周年記念例会(10 月 18 日 12 時~14 時,船橋 FACE 地下の鳥元で)への出欠は千葉クラブ例会(11 日)の折,確認する。
4. 9 月の健康ウォーキングは27日(土),稲毛の浜を散策する。(結果は下記報告)
5. 10 月 26 日の少年自然の家「秋わい」へのワイズカフェは出店の方向で調整する。

◆YMCA ニュース

* 船橋地域デポで,船橋市内の小学校で行う障がい者理解・体験教室にボランティアを派遣します。今年度はまず高根東小学校で,9月18日午前に実施。Y・ワイズのボランティアが 15 名参加協力しました。(千葉クラブから:青木清,池田,廣田)

◆健康ウォーキング 稲毛海浜公園へ



9 月 27 日,健康ウォーキングで稲毛海浜公園(花の美術館の前庭~奥庭,隣接の庭園,海岸の突堤)を歩きました。解散後,卸売市場で海鮮の昼食を共にしました。参加 6 名(ワイズは青木2,長尾,廣田)。次回は 11 月 22 日(土), 行先は検討中です。

◆今回卓話の内容紹介

8月1日 エリア大会初日 開会式, 国際役員就任式, 記念講演(大野嘉宏ラオス名誉領事), 晩餐会

2日 遠足(阿蘇周遊=白川水源・草千里・大観峰), 晩餐会 /3日 国際書記長報告, AYC 〃, 閉会式

4日 山口県周防大島訪問(ホームステイ 2 泊)

5日 柳井教会, 柳井・白壁の町並み, 金魚提灯

6日 広島市平和記念式典, 諸行事, 灯籠流し

7日 広島流川教会(青木母教会)訪問

千葉&千葉ウエストワイズ合同例会 卓話

骨子 2025.9.13

社会福祉法人賛育会
赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト
事務局長 大江 浩

1. はじめに…キリスト教セトルメントでの経験から

*JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)ータンザニア・パキスタンの医療者の働き

*社会福祉法人興望館(創立1919年ー日本キリスト教婦人矯風会外国人宣教師による)

YMCAと繋がりのある2つの地域密着型のセトルメントの活動ー途上国の母子保健や新生児小児医療、また日本のこども家庭福祉、児童養護・社会的養育の現場から見えるー「子どもたちの SOS」の問題は、私の経験の中で繋がり、賛育会「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」に結びついています。

2. 社会福祉法人賛育会(創立1918年)「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」について

*キリスト教使命に基づく隣人愛の実践

東京大学YMCAの有志が始めた下町での妊婦乳児相談所(1918年)、日本初の庶民向けの産院(1919年)の活動は、賛育会の原点であり、隣人愛の実践の歴史そのものです。

*賛育会が取り組む3つの理由

賛育会の原点: 困窮下の母子の保護・保健・救済／キリスト教の隣人愛と実践: ともに生きる社会への新たな使命／看過できない”静かなる非常事態”(Silent Emergency) = 予期せぬ妊娠や孤立出産 = 困窮下の母／嬰兒の遺棄と貧困・虐待・家庭崩壊等

*賛育会病院の現状・実績

母子生活室への延相談件数／介入が必要だった分娩／出産における国籍の多様性

*プロジェクトの3つの事業

「妊娠したかも SOS」(夜間・匿名相談): 2024年7月開始

「内密出産»: 2025年3月末開始

「ベビーバスケット」(匿名での赤ちゃんの預かり): 2025年3月末開始

*「妊娠したかも SOS」について

若年層の中高生・大学生の女子・女性からの相談が多くありました。予期せぬ妊娠への悩みが多く、孤立無援、追い詰められた状況下のSOSコールで、最近では男性からの相談も増えています。

*「内密出産」と「ベビーバスケット」について

NHK クローズアップ現代(6/11)で放送されたように、内密出産とベビーバスケットが複数件ありました。様々な事情が背景にあり、病院は24時間365日の体制で備えています。

*社会のセーフティネット、命のネットワーク

一病院でできることは限られています。様々な社会資源が連携・協力し合いながら、「みんなで支える」社会のセーフティネット、命のネットワークをつくっていく必要があります。

*プロジェクトの Vision, Missionーすべてのいのちが守られる社会を目指して

・内密出産とベビーバスケットは、母の”最後の砦”／赤ちゃんの命の”最初の一步”です。

・プロジェクトが”不要となる社会”を願って、”静かなる非常事態”と向き合います。

・”すべての人の命が守られる、即ち”誰一人取り残さない”社会に向けて取り組みます。

*プロジェクトの根拠

「最も小さき者の一人にしたのは、即ち、私にしたのである」(マタイ25章40節)

「私たちは大きなことはできません。小さなことを大きな愛をもって行うだけです」(マザー・テレサ)

ー以上ー

付記: 大江さんはたいへんお忙しく、9月下旬はドイツへ出張、同国の babyklappe(赤ちゃんの扉)や妊娠葛藤相談所(予期せぬ妊娠に悩む女性のための福祉やソーシャル機関)等、各所を訪問し、実践者の「生の声」を聴き、学べたとのこと。

「またいつかお会いして、ドイツ視察のお話をさせて頂ければ、と願っております。」(大江)